

グリーンイノベーション基金事業
「次世代航空機の開発」プロジェクトに関する
研究開発・社会実装計画（改定案）に対する意見公募手続の結果について

令和 5 年 1 0 月 2 日
経済産業省製造産業局
航空機武器宇宙産業課

「グリーンイノベーション基金事業「次世代航空機の開発」プロジェクトに関する研究開発・社会実装計画（改定案）」について、令和 5 年 7 月 2 8 日から同年 8 月 3 1 日まで意見公募手続を実施いたしました。

結果については以下のとおりです。なお、行政手続法第四十三条 2 項に基づき、提出意見は整理又は要約しております。

1. 意見公募の実施方法

- ・意見募集期間：令和 5 年 7 月 2 8 日（金）～令和 5 年 8 月 3 1 日（木）
- ・実施方法：電子政府の総合窓口（e-Gov）における掲載
- ・意見提出方法：e-Gov

2. 提出意見数

4 件

3. 提出されたご意見の概要及びそれに対する考え方
別紙のとおり。

御協力いただき、誠にありがとうございました。

御意見及びそれに対する考え方

御意見	御意見に対する考え方
・ 6 ページの「取り組み」と、「取組」は、表記を統一したほうがよい。 ・ 1 2 ページの「さらなる」は 8 ページと表記を統一し、「更なる」にしたほうがよい。 ・ 1 2 ページの「nm」はナノメートルと誤読されないように、「ノーティカル・マイル」と表記したほうがよい。 ・ 1 7 ページの「小さいなかで」は「小さい中で」に表記を統一したほうがよい。 ・ 2 6 ページの最下行「ごろ」は「頃」に表記を統一したほうがよい。	ご意見ありがとうございます。ご指摘については、表記を統一することで対応させていただきます。 なお、「nm」の表記方法については、「km」による表記を先に行い、「nm」をカッコ書きで記載することで対応させていただきます。
MRJ の開発が中止されたところであり、脱炭素という制限を加えると、ますます日本の航空機開発が足踏みしてしまう。 脱炭素等に関係なく、次世代航空機の開発に専念してほしい。	ご意見ありがとうございます。航空業界においては、これまでも燃費改善に向けた取組が進められてきたところですが、国際民間航空機関（ICAO）において、2050 年カーボンニュートラル達成の目標が合意されたことを受け、世界的に脱炭素化に向けた取組が加速しております。 これまでも燃費改善に向けた取組は行われてきたところですが、2050 年カーボンニュートラルの実現に向けた次世代航空機の開発においては、SAF の導入や運航方式の改善等の取組に加えて、新技術の導入が必要不可欠であり、各国において開発競争が行われているところです。 本プロジェクトにおいては、我が国が強みを持つ技術を活用しながら、新技術の開発に取り組み、国際競争力を向上させることで、日本の航空機産業の発展を目指してまいります。
日本の自然資源、強酸性泉の塩酸を金属と反応させ、その反応で生成した水素を燃料電池動力飛行機のエネルギー源として利用する技術の開発を提案する。 この取り組みにより、CO₂ 排出の削減、持続可能なエネルギーの利用、地域経済の活性化が期待される。	ご意見ありがとうございます。ご指摘いただきました通り、今回の追加プロジェクトで取り組む予定である水素燃料電池電動推進システムの社会実装に向けては、エネルギー源となる水素をどのように供給するかについても重要な要素と考えております。

	一方で、水素関連技術についてはグリーンイノベーション基金事業における他のプロジェクトにおいて研究開発を進めているところであり、引き続き、関係部署とも連携を図りながら、CO2 排出の削減等に向けて取り組んでまいります。
水素は水素脆化を発生させるし、分子が小さく各所から漏れやすいのでその制御が行いがたく、経年使用での危険性もある。 地上において火力発電所のタービンで水素を燃料とするのは、問題が発生してもその被害はそこまで大きくならないのが通常と思われるが、航空機が水素を使用するのは、大きな問題が存在するのではないかと考える。 環境面について見ても、航空機においての水素の主燃料としての使用は、水素・酸化水素によるオゾン層の破壊に大きく寄与してしまうことから望ましくない。環境保護・SDGs の観点から見ても、その使用は不適切であり、水素を直接的に燃料として用いるような航空機については、規制がかけられていくのではないかという見方をする。 （なお、補助動力用等での燃料電池向けに利用する場合においては、スタックから漏洩する水素の量について厳しく規制を行い、燃料電池からのモジュール外部への水素漏洩は全く無いようにすべきと考える。） よって、水素を航空燃料として使用するのには危険性が高いので行わないべきと考える。また、水素の使用は容量あたりのエネルギー密度的にもあまり得策でなく、進歩する先として適切とは思われない。	ご意見ありがとうございます。ご指摘いただきました通り、水素を航空燃料として使用する際の安全性等の問題については大変重要であり、本プロジェクトを実施するうえでも考慮する必要があると考えております。 研究開発・社会実装計画（改定案）においても、研究開発項目 3 の研究開発内容（P23）に、「当該技術に関連する国際標準化活動への参加、及び認証取得に向けた安全性を示すためのロジック・方針の検討も技術開発と並行して進める。」と記載しているところですので、ご提案いただく事業者においても十分にご検討いただくこととしております。